



【危機を祝福に変える信仰の原則】

聖書箇所：創世記50章20節/暗唱聖句：ローマ人への手紙8章28節

説教者：鄭南哲師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお変わりなくお元気でしたか。

< 1. 試練と問題の連続の波乱万丈のヨセフの人生 >

旧約聖書の中は、創世記37章から50章にかけて、神様はヨセフの話を詳細に記しながら、人生の中で思わぬ試練に直面し、苦しめられている時に、どう対応すれば良いのかよく教えて下さっています。

みなさんもお存じのように、ヨセフはヤコブの子どもの中12人兄弟中11番目でした。兄弟たちは、互いに競争意識を燃やしていましたが、特に上の兄弟たちは、ヨセフに強いやきもちを抱いていました。なぜなら、ヨセフだけが特別に父親ヤコブのえこひいきを受けていたからです。

その葛藤が頂点に達した時、ヨセフの兄たちは、ヨセフを深い穴に投げ落として殺そうと図りました。ちょうど、その時に、通りかかったエジプトの商売人にヨセフの兄たちはヨセフを殺すより、売ってしまいます。ヨセフは自分の意志と関係なく、兄弟たちによって奴隷としてみじめな立場となり、エジプトに連れて行ってしまいました。ヨセフは家と家族から、無理やり離れられ、イスラエルから、遠い外国のエジプトに連れられてしまいます。一人の知人もおらず、言葉も分からず、しかも、不本意ながら奴隷になるしかありませんでした。

しかし、ヨセフの人生の試練はそこで終わってません。さらに悪いことに、ヨセフを奴隷として買い取ったエジプトの主人の妻に言い寄られ、性的な誘惑を何度も受けても、ヨセフがそれを拒むと、彼女は感情的になり、逆に自分がヨセフに姦淫されそうになったと嘘の訴えをし、自分を守る力がなかったヨセフは彼女の嘘の訴えにより、牢屋に入れられてしまいました。

彼は人に裏切られた人生の連続で傷だらけ、孤独で、益々人生のどん底に陥られる一方でした。

「なぜ私が。どうして僕だけが」と言う権利のある人がいるとすれば、ヨセフこそ、その人だったのに間違いないでしょう。みなさんの中には、今までの人生の中で「どうして、私にこんなことが続くの」とまったく自分が招いてもなかったのに、こんなに苦しまないといけないのかと感じた時はなかったでしょうか。

けれども、このような悲劇的な出来事の連続から何年も経った後、ヨセフは兄弟たちとの再会を果たし、言葉を交わした時の態度はどうだったのでしょうか。

一連の出来事を思い出しながら、ヨセフは兄弟たちに向かってこう言いました。

創世記50章20節「あなたがたは私に悪を謀(はか)りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のようにして、多くの人が生かされるためだったのです。」

つまり、ヨセフはこう言いたかったのでしょうか。

「お兄さんたち、あなたがたが私に悪意(あくい)でやってはならないことを犯しましたが、神様はその出来事さえも用いて、私の人生、お兄さんたちの人生、そして多くの人たちの人生を益としてくださったのです」と。

< 2. ヨセフの人生の中で見出した3つの大切な信仰の真理 >

ヨセフはどうやって、耐え難い試練の連続の中、ここまで持ちこたえることができたのでしょうか。

それはヨセフが、試練の人生の中で自ら見出した3つの大切な信仰の真理に基づいて生きていたからであることが聖書を通して教えられます。

ヨセフは自ら見出した信仰の真理に助けられて、悲劇的な状況の中でも、耐え忍び、次々の逆境の谷を乗り越えることができたと信じます。

①神様は苦しんでいる自分と必ずともにおられ、すべてをご覧になり、知っておられるのを信じる！

ヨセフは続く苦しみの中でも、自ら見出した大事な信仰の真理の一つは、神様は今苦しんでいる私たちと必ず、

いつもともにおられ、経験することをすべてご覧になり、知っておられる」ということでした。それは、ヨセフの人生にはっきりとした形で表れています。神様が自分の人生のどんな時でも、ともにおられて、起こっているすべてを見ておられ、心に留めておられるということ、ヨセフは決して疑いませんでした！ヨセフの身に試練や問題が迫るたびに、5回に渡って繰り返されている重要な御言葉があります！

「主がヨセフとともにおられたので、彼は成功する者となり、そのエジプト人の主人の家に住んだ(創世記39:2)」
「しかし、主がヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた(創世記39:21)」
「監獄の長は、ヨセフの手に委ねたことには何も干渉しなかった。それは、主が彼とともにおられ、彼が何をしても主がそれを成功させてくださったからである(創世記39:23)」

「しかし、主はヨセフとともにおられた。(創世記39章21節)」のです。
すべてが悪い方向に向かっている時でさえも、彼が信じていた通り、実際神様は実際ヨセフとともにおられたのです。そのため、ヨセフは次々の逆境の谷を耐え忍びつつ、乗り切ることが出来たのです。

②神様がすべての人々に選択の自由を与えて下さったことを信じる！

ヨセフが見出していた二つ目信仰の真理は、神様がすべての人々に選択の自由を与えられたということでした。神は全ての人を、人形やロボットのように、何の意思もなく、ただコントロールされる存在として造られたわけではありません。神様はすべての人々に選択の自由意志を全ての人々に与えられました。

ですから、もし、人々が神様の御心に反する選択をしたとしても、神様は人々にその御心を押し付けることはなさらないお方であることをヨセフは認めて、信じていました。

時々私たちは、自ら問題を招いたのにもかかわらず、それがあたかも神様の責任であるように、神様を恨んだり、攻めることがあります。

大きな事故、悲劇的な出来事、様々なトラブル、病、危機などそれらを目にすると、まるで神様が失敗や悲劇を計画的に起こし、楽しんでおられるかのように、神を恨んだりもする時があったのではありませんか。今まで我らも試練に巻き込まれた時、よくそう反応したのではありませんか。

神様は私たちの人生に対して、御心を持っておられると同時に、私たちに自由意志を与えられました。

当然のことですが、神の御心がいつもこの地上で行われているわけではありません。

私たちが自分で決めた道を進む選択をした時には、神様は御自身を制限させ、待てておられます！

神様は、私たちが自分の選択によって過ちを犯し、自ら問題を呼び込んでしまう自由をも許しておられるのです。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！

ですから、その意味は自分以外の人々にもそれぞれ選択の自由がえられていますから、彼らの犯した過ちや間違った判断によって、私たちが傷つくことも当然、いくらでもあり、起こりうることであり、ヨセフはそれを認めてありうることを知り、信じていたのに間違いありません。そのため、神を恨んだり、人を恨みたい畏から自分を守る事が出来たと信じます。

ヨセフの兄たちは、故意にヨセフを殺そうとし、陥れようとしてしました！これ自体は罪であり、その罪に対して神は、その代価を受けるようにさせます(創世記42章21節)が、神は人を繰り返り人形のように造られなかったので、その事が起こるのを赦されたの事をヨセフは認め、いつも信じていました。

③神が事の成り行きすべてを究極的に治めておられることを信じる！

しかし、みなさん！ヨセフは二つ目で信じ終わってませんでした。

ヨセフは辛い人生の中で見出した三つ目の信仰の真理を握り信じていたので、次々の試練の連続の中で、耐え忍びつつ、乗り切ることが出来たのです。その三つ目は神様は事の成り行きすべてを究極的にコントロールし、すべてを治めておられるといつも信じていました。

神様は、我らのすべての過ちや他の人々が私たちに対して犯したすべての罪を取り扱われ、神の時に必ずそれらを好転(こうてん)させて下される、悪いことを良いことへと必ず変えてくださるお方であることをヨセフは

強く信じ忘れませんでした。ヨセフはたとえ、最悪な状況でさえ、神様は私のために良きものへと変えることがおできになるお方であることを信じ切っていたのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！時には自分の願い通りにならず、思わぬ問題に巻き込まれ、何かめっちゃくちゃになっているように感じる時でさえも、**最終決定権を握っておられるのは、神様であられることを信じて忘れないようにしましょう！**ヨセフは直面した思わぬ苦しい状態がいつまでなのか分からず続いても、最終的に何を起こすかすべてを治め、介入し、導かれるのは、神様ご自身であられることを信じていたので、自分の人生を諦めず、恨まず、歩み続けることが出来たのです！

みなさん！ヨセフについて考えて見ましょう。危(あや)うく殺されかけ、奴隷として売られ、姦淫罪で訴えられ、牢屋に入れられてしまったヨセフの人生は、長年ずっと下り坂をころげ落ちるような人生でした。

しかし、神様はそれらの悲劇的な出来事を取り扱われ、ヨセフの思いをはるかに超えた状況へと変えてくださったのです。

神はヨセフの状況がさらに悪化され、牢獄に入られたの時は何も、どうなるかも分からなかったのですが、その時、牢屋に入っていたエジプトの王パロの右腕として働いていたある男性と出会わせて、親しくなる方向のプロセスに導かれます！この男性が再びパロの元で働き始め、パロが見た夢のことを聞いた時、ヨセフがパロの夢を解き明かす機会が与えられ、宮殿に招待されました。そこでヨセフはこう言いました。

「王様、神様は夢について次のように仰せられます。その意味は“これから7年間は農作(ほうさく)に恵まれるが、その後7年間は飢餓(きが)になります。そのための備えをするように現した夢なのです。”」

エジプトのパロ王はヨセフに心が動かされ、非常に感銘を受け、彼をエジプト全土の総括する総理つまり、副司令官へと一気に躍り出ました。こうして神様は、ヨセフを用いて、エジプトとイスラエルを含む近隣諸国の多くの人々を飢餓から救うことに大いに用いられました。

神様はヨセフの事のすべての成り行きをごらんになっておられますが、私たちに選択の自由を与えておられるので、普通の時には私たちの自由意志に反して介入されることはなさいません。その時、神様はご自身を制限しておられるのです。しかし、もし私たちが心から神にゆだねる時、神様は私たちの間違った選択や私たちの身に起こった悪い出来ことさえも、良いものに変えてくださり、最終的に益として下さるように導いて下さいます！

愛する信仰の家族のみなさん！**神にゆだねるとは、どんな状況の時でも、神に信頼し、頼りまかせることではないでしょうか！**聖書に書かれているヨセフの人生を通して、神様が我らにもう一度教えて下さる大切な信仰の真理は、この世のすべての人のために、神様はすべてを益として下さるのではなく、人生を神様に明け渡し、一つ一つの出来事を神様を信じ、神様にゆだねていく人のために、神様はすべてのことを働かせて益として下さるといことです。

我らが注意すべきことは、私たちが自分で握り締めている限り、神様はすべてのことを働かせて益とすることがおできになりません。ですから、神様は、私たちは自分の苦しみ、問題を、神様にゆだねる時を待たせられ、そう信じ、委ねる者をすべてを究極的に治め、良いものとさせ、益となるようになさるお方でありませう！ということですよ！

良い時にも、状況が良くない時でも、いつも、主に信頼していたヨセフに、人生の終盤で「**あなたがたが私を傷つけるためにしたことを、神様は益としてくださった！**」と証しすることができました。

ヨセフは、今の状況を益とすることがおできになったのは、たとえ今の状況が理解できなくても、彼がいつも主に信頼して、自身の大事な人生を神の前であきらめてしまわなかったからでした。

<3. 人生の試練や問題に巻き込まれる中注意すべきこと>

①自己憐憫に陥らないように

仮に、問題や試練に襲われたとしても、神を信じるヨセフは日々自分に許されている人生の貴重な時間を自己憐憫に費やしている暇はありません。

今日深い自己憐憫は、うつを引き起こす大きな原因の一つでもあります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！深刻な問題を経験する時や自己評価(セルフイメージ)が低い人の場合、たいてい自分自身を否定し、さげすみ、しまいには哀れむようになります。しかし、今日ヨセフはそうしませんでした。自分を責めず、今おかれてい問題やる危機的状況の責任が自分にはないことを、冷静に見分け、受け止めようと努めました。

愛するみなさん！もし、今船に乗って航海(こうかい)の最中なのに、嵐に遭遇(そうぐう)したら、どうしますか。なぜ自分に今こんなことが起きたのか。自己憐憫に陥っているうちには何も問題解決にされないことを覚えておきましょう。正面から風を受け止めながらも、切り抜けるしかありません。船体(せんたい)の横から風を受けると転覆(てんぷく)してしまうからです。私たちの人生も同じです。

もし、今日みなさんの中で「なぜ、どうしてこんなことが私に起こったのか。やっぱり私の人生は駄目か、もうい失敗なのかな」と自己憐憫に陥っている時なら、なるべく、**落胆している時に極端的な選択や大きな決断をしてはならない**ことを注意しましょう。私たちは落胆すると、「もうやめてしまおう」とか、「別の場所に移ろう」とか、転職しよう、縁を切ろう、離婚の申し立てをしよう」というような今までの事実より、感情的になっている今がすべて真実かのように、極端なことばをしばしば口にしやすくなります。しかし、自己憐憫に陥って落胆している時の感情は、大体まったく当てになりません。正確な判断力をうしないやすく、的外れな歪んだものの見方しかできなくなっているからです。ですから、そのような時には、大切な決断をしてはいけません。

すべてが悪い方へと向かっていた時の、ヨセフの生き方に見られるもう一つの特徴は、

②だれかに恨みを抱かないように！

長年経って、ついにヨセフが兄たちに再会しました。ヨセフの兄たちは穀物を手に入れるために、エジプトにやって来ました。彼らはエジプトの総理であるヨセフの前に進み出て、頭を下げた時、それがまさか自分たちが殺そうとし、売ってしまった弟ヨセフであることに、まったく気づきませんでした。

しかし、ヨセフが兄たちに自分を明かした時、兄たちは、パニックで、ショックを受け、同時に仕返しされる恐れを抱きました。復讐されるのに当然だと思いこんだでしょう。目の前に、かつて自分たちが殺そうとした弟がいて、今やその弟は自分たちをどうにでも出来るエジプトの高い地位に付いていたのですから。

しかし、ヨセフは兄たちを赦します！ヨセフは恨みという余計なお荷物のために、人生の貴重なエネルギーを費やす価値はない！としっかり線を引いた姿でした。

愛するみなさん！もし、だれかを恨みたいという誘惑がみなさんにも来る時、私たちはどうしたら、良いのでしょうか。そのつらい思い、傷ついた心を、人ではなく、神様に吐き出し、ゆだねることを選択することが出来ます！ヨセフはそうしました。ヨセフは、人への恨みより、神様への信仰と希望を選び持ちつづけ、最終的には神様がすべてを働かせて益としてくださることを信じて信仰に立ち続けていたので、人を恨もうとする罠に陥ることはなかったのです。

「悪に対して悪に返さず、侮辱にたいして侮辱に返さず、逆に祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのです。(ペテロ手紙第一3章9節)」

③どんな時にも自分に向かう神の計画と約束を忘れないように！

みなさん！我々の人生の物事がうまくいかないときがあります。色々制限されたり、自分が願っている通りに、思い通りならず、苦しくなる時も実は、多くあるでしょう。

これからも7千以上かかっている神様の約束の御言葉を使いましょう。神様からこんな素晴らしい御言葉、御約束を持っていても、実際に使わなければみなさんの人生に何も役にたちません。

神様是最悪の出来事から、最善を引き出すことができになります。

十字架は、人が考え出した最悪の罪の極端的な見本でしたが、神様はそれさえも益としてくださり、人類の祝福のためにイエスキリストの贖いを通して用いられたのではありませんか。神様は、十字架を復活に変えることを心から望んでおられるのです。

ヨセフの逆境の中勝利を得た一番大切な態度は、どんな時にも自分自身に向かうの神様の計画と約束を忘れなく、握っていたことです。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。(ローマ人への手紙8:28)」ぜひもう一度この御言葉を暗記し、心に留めておきましょう。

今日の朝、もう一度、今私たちが直面している問題よりも偉大なお方なる神様を見上げましょう！

もちろん、苦しみの時を通っている途中には、神様がそこにも働いておられることを理解するのはとても難しいかも知れません。しかし、後になって振り返ってみると、神派事態がよりよく理解できるようにさせていただきます。あの時、神様が何をしておられたのか、そして、その出来事をどのように神様が用いて下さったのか分かるようになると信じます。

この神様を約束、御計画が信じ、分かって来ると、私たちは自分に過去につらい思いをさせられた相手にも本文20節のあのヨセフのようにこう言えるようになりますと信じます。

「あなたがたは私に悪を謀(はか)りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のようにして、多くの人が生かされるためだったのです！」とですね。

自分の人生をイエスキリストにゆだねたからといって、今すぐすべての嵐が取り去られるわけではありません。けれども、今もなおともにおられる主イエスキリストは、嵐を乗り切るための勇気と力を、忍べる忍耐と見極める神の知恵も与えて下さいます！

愛するクリスチャンプレイズの全信仰の家族のみなさん！何が起こっても、神様の自分に向かうご計画と祝福の約束を信じる人は、問題を自分で握り締めている限り、問題がもっと悪化になってしまうことを実感し、よく知っています。ですから、自分より神様が働かせるように人生を神様に絶えず、ひたすら、明け渡し、ゆだねようとします！必ず神様がすべてのことを働かせて益として下さるのを信じているからです！

今日もみなさんの心と信仰を、与えられているみなさんの自由意志を用いて、もう一度神様の方に方向を転換しませんか。問題や危機にぶつかるたびに、人にではなく、もり徹底的に主に明け渡し、ゆだねて行きましょう。必ず神様が益とさせ、祝福に変えて下さることを、ヨセフのように、これから我らも共に体験していく愛するクリスチャンプレイズの全神の家族となりますように心からお祈り申し上げます。アーメン！

